

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 12 月 20 日 (2007.12.20)

【公表番号】特表 2007-510877(P2007-510877A)

【公表日】平成 19 年 4 月 26 日 (2007.4.26)

【年通号数】公開・登録公報 2007-016

【出願番号】特願 2006-539578(P2006-539578)

【国際特許分類】

**F 1 6 F 7/00 (2006.01)**

**F 1 6 F 7/12 (2006.01)**

【F I】

F 1 6 F 7/00 A

F 1 6 F 7/12

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 10 月 30 日 (2007.10.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第一端部を備えたダンパ壁と、

少なくとも 2 つのダンパ段と、を有し、

各ダンパ段は少なくとも 1 つの隣接ダンパ段にフレキシブルに取付けられ、1 つのダンパ段はダンパ壁の第一端部にフレキシブルに取付けられ、ダンパ壁およびダンパ段は連続的に小さくなっていくサイズを有していることを特徴とするモーションダンパ。

【請求項 2】

力が加えられたときに、少なくとも 1 つのダンパ段が隣接ダンパ段に対して位置を変化することを特徴とする請求項 1 記載のモーションダンパ。

【請求項 3】

各ダンパ段は隣接ダンパ段にフレキシブルに取付けられており、力が加えられたときに、ダンパ段がダンパ壁から離れる方向に入れ子式に伸長することを特徴とする請求項 1 記載のモーションダンパ。

【請求項 4】

前記ダンパ段はエネルギー吸収材料で作られていることを特徴とする請求項 1 記載のモーションダンパ。

【請求項 5】

前記エネルギー吸収材料はプラスチックであることを特徴とする請求項 4 記載のモーションダンパ。

【請求項 6】

前記エネルギー吸収材料は金属であることを特徴とする請求項 4 記載のモーションダンパ。

【請求項 7】

少なくとも 1 つのダンパ段は、隣接ダンパ段内に嵌合されるサイズを有していることを特徴とする請求項 1 記載のモーションダンパ。

【請求項 8】

前記ダンパ壁およびダンパ段は、作動前に、重なり合い関係を有することを特徴とする

請求項 1 記載のモーシヨndanバ。

【請求項 9】

前記ダンバ壁およびダンバ段は一体に形成されていることを特徴とする請求項 1 記載のモーシヨndanバ。

【請求項 10】

前記ダンバ段は、一回だけ作動するダンバ段であることを特徴とする請求項 1 記載のモーシヨndanバ。

【請求項 11】

流体発生器と、アクチュエータ壁と、少なくとも 2 つのピストン段と、ピストンヘッドと、アクチュエータ壁およびピストン段により少なくとも一部に形成された内部チャンバとを備えたりニアアクチュエータを有し、各ピストン段は少なくとも 1 つの隣接ピストン段にフレキシブルに取付けられ、1 つのピストン段はアクチュエータ壁にフレキシブルに取付けられかつ他のピストン段はピストンヘッドに取付けられ、アクチュエータ壁およびピストン段は連続的に小さくなっていくサイズを有し、流体発生器は内部チャンバに流体連通しており、

ダンバ壁、少なくとも 2 つのダンバ段と、ダンバヘッドとを備えたモーシヨndanバを有し、各ダンバ段は少なくとも 1 つの隣接ダンバ段にフレキシブルに取付けられ、1 つのダンバ段はダンバ壁にフレキシブルに取付けられかつ他のダンバ段はダンバヘッドに取付けられ、ダンバ壁およびダンバ段は連続的に小さくなっていくサイズを有し、ダンバヘッドはピストンヘッドに取付けられていることを特徴とする減衰型アクチュエータ。

【請求項 12】

流体発生器と、アクチュエータ壁と、少なくとも 2 つのピストン段と、ピストンヘッドと、アクチュエータ壁およびピストン段により少なくとも一部に形成された内部チャンバとを備えたりニアアクチュエータを有し、各ピストン段は少なくとも 1 つの隣接ピストン段にフレキシブルに取付けられ、1 つのピストン段はアクチュエータ壁にフレキシブルに取付けられかつ他のピストン段はピストンヘッドに取付けられ、アクチュエータ壁およびピストン段は連続的に小さくなっていくサイズを有し、流体発生器は内部チャンバに流体連通し、リニアアクチュエータは車両の第一部分に連結されており、

ダンバ壁、少なくとも 2 つのダンバ段と、ダンバヘッドとを備えたモーシヨndanバを有し、各ダンバ段は少なくとも 1 つの隣接ダンバ段にフレキシブルに取付けられ、1 つのダンバ段はダンバ壁にフレキシブルに取付けられかつ他のダンバ段はダンバヘッドに取付けられ、ダンバ壁およびダンバ段は連続的に小さくなっていくサイズを有し、ダンバヘッドはピストンヘッドに取付けられ、モーシヨndanバは車両の第二部分に連結されていることを特徴とする減衰型アクチュエータ。

【請求項 13】

力が加えられたときに、少なくとも 1 つのダンバ段が隣接ダンバ段に対して位置を変化することを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の減衰型アクチュエータ。

【請求項 14】

各ダンバ段は隣接ダンバ段にフレキシブルに取付けられており、力が加えられたときに、ダンバ段がダンバ壁から離れる方向に入れ子式に伸長することを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の減衰型アクチュエータ。

【請求項 15】

前記ダンバ段はエネルギー吸収材料で作られていることを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の減衰型アクチュエータ。

【請求項 16】

前記ピストン段は流体発生器の付勢に応答して作動することを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の減衰型アクチュエータ。

【請求項 17】

少なくとも 1 つのダンバ段は、隣接ダンバ段内に嵌合されるサイズを有していることを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の減衰型アクチュエータ。

**【請求項 18】**

前記ダンパ壁およびダンパ段は、作動前に、重なり合い関係を有することを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の減衰型アクチュエータ。

**【請求項 19】**

前記リニアアクチュエータは、一回だけ作動するリニアアクチュエータであることを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の減衰型アクチュエータ。

**【請求項 20】**

前記モーションダンパは、一回だけ作動するモーションダンパあることを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の減衰型アクチュエータ。

**【請求項 21】**

前記ダンパ壁、ダンパ段およびダンパヘッドは一体に形成されていることを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の減衰型アクチュエータ。

**【請求項 22】**

前記アクチュエータ壁、ピストン段およびピストンヘッドは一体に形成されていることを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の減衰型アクチュエータ。

**【請求項 23】**

前記リニアアクチュエータおよびモーションダンパは同軸状であることを特徴とする請求項 12 に記載の減衰型アクチュエータ。

**【請求項 24】**

車両の第一部分が車両に枢着されていることを特徴とする請求項 12 に記載の減衰型アクチュエータ。

**【請求項 25】**

車両の第一部分はシートであることを特徴とする請求項 24 に記載の減衰型アクチュエータ。

**【請求項 26】**

車両の第一部分はフードであることを特徴とする請求項 24 に記載の減衰型アクチュエータ。